

平成9年4月30日現在

長勝寺 CHOSHOJI

世帯数 91戸
人口 320人

大字長勝寺は能登川町のいちばん東に位置し、如意山西端の一峰・長勝寺山を背に一級河川大同川の流れる水と緑に囲まれた穏やかな所です。長勝寺山には山寺・長勝禅寺があり、その由来は大変古く、慈覚大師の創立で天台宗の名刹でした。本尊は慈覚大師自刻による薬師如来像です。当時は12の坊舎が山麓に並べ、壮麗を極めていましたが、永禄年間（約430年前）に織田信長の兵火にあい、12の坊舎も焼け落ちました。わずかに残ったものは本尊薬師如来像と長勝寺の額、石燈籠であったということです。僧侶たちは、食に困り遺俗して農民になり、それより長勝寺という一村ができたと言われています。

その後、天保年間（1830～43）に京都臨済宗妙心寺派下、中本山瓦屋寺の香山和尚が諸国勧化の途中、当山に來泊し、薬師如来像の靈驗著しいことを感じ伽藍を建立してその徒弟である祖印（当山二世中興）を住職とし、いまの宗旨（臨済宗妙心寺派）に改めました。明治8年（1875）に十世住職によって書かれた『長勝寺縁起由来書』には、280年を経たと記されています。

また当字には勸縄吊という珍しい行事があります。これは毎年1月10日に山寺で行われます（現在は最寄りの日曜日）。この日は壇家は全員、門徒は有志で、山寺に上がり太い注連縄（直径10センチ長さ8メートルの大蛇形）を作り、乎加神社よりもらいうけた七本杉の小枝ともちの木の小枝を小さく切り、細縄でくっつけた垂れを12房と杉の小枝を丸めた輪を3個作り大注連縄の中央部に太い割竹ではさんで固定し、祈祷された守護の護符をつけ、目玉の上部には御幣を各1本宛て飾り12の房には小さな御幣を沢山つけて仕上げます。それを本堂にて住職の祈祷を受けたのち山を降り字の入り口の道路・橋の上に張り渡し字の安全祈願をします。すべての行事が終わった後、全員山寺に戻り納豆汁で遅い昼食をいただき、帰宅するという、昔からの古い行事がいまも引き継がれて行われています。

現在、長勝寺は年間行事等を通じて区民の交流を深め、明るい住み良い町づくりに力を入れています。



長勝禅寺本堂・水子地藏尊



勸縄吊

平成9年4月30日現在

神郷 JINGO

世帯数 95戸
人口 400人



乎加神社の裏にある亀塚古墳



墓地入口にある二石六仏地蔵

私たち神郷は、字のごとく神の里と言われ、乎加神社にまつわる古き伝説「神郷七本杉」「後二玄武の亀塚」と『三国伝記』にも記されている亀塚古墳が現存します。正楽寺遺跡の保護地区でもあり、歴史の古い地です。

神郷は、森村・計村（斗村）・郷村と3つの小字から成り、それぞれに神（神社）があったようです。乎加神社の祭礼も古式豊かで村の一大行事として語り継がれ、また大日如来像を祀る大日堂、古い地蔵和讃を唱える地蔵盆など昔からいろいろな宗教的行事も盛んな所です。

神郷の墓地は、新旧2つあります。旧墓地は御園山（和田山系）の山頂50メートル程の高さにあり、また参道は約100メートル程で、険しく急な坂です。その参道入口に「二石六仏」の六地蔵さんがあり、「乳あずけ地蔵さん」と呼ばれています。産後乳が腫ったときは、このお地蔵さんに一時おあずけすると乳の腫れが治まるという御利益があると言われていました。また一石六仏・二石六仏地蔵さんは県下でも少なく約300年前に造られたものと伝わっています。神郷村も約300年前からの歴史があると言われていたところから、お墓もその時代に作られたものと思われる。

お墓は共同墓地で土葬です。墓標を立て、古いところから始末し、村人（同行）が穴を掘る、どこを掘っても2つや3つの骨は必ず出てきます。また天候にかかわらず雨・雪が降っても輿をかついで涙をこらえ、親族はもちろん、お坊さんや会葬者も山頂まで棺を送ります。この古い「しきたり」をあらため、昭和42年（1967）にその山裾に新墓地が造成されました。各家ごとに分割され公園墓地として、自治区で管理しています。また旧墓地は毎年お盆の8月15日に清掃を行い、区民全員が墓参りし、法要をつとめ故人を偲んでいます。このように祖先を大切に尊び、古き良きことは残し、見直し、また現代的にと村改革に取り組んでいます。住みよい心のかよう村づくりのために、公民館、草の根広場を中心に活気ある活動を行っています。

平成9年4月30日現在

佐生 SASO

世帯数 127戸
人口 375人

明治8年(1875)に調べられた『近江國神崎郡佐生村地誌』の一部を抜粋してみます。

近江國神崎郡佐生村

この村は昔は八条莊または垣見郷、あるいは佐野郷といった。林村・鉢光寺村・猪子村・佐野村などがその中にある。

伝承によると、昔この地に泉があった。そこに湧く清水(シャウズと呼んでいる)は大旱魃や大雨の時も湧き出すことはいつも変わらず、濁らず素晴らしい霊泉であるので、観音寺山の城主佐々木氏の祖先がこの地にやって来て、別館を設けた。ところがここにおいて嫡子が誕生し、この泉で産湯を使ったので、「佐生木産湯の泉」と呼んでいる。(現在いままなお字里の中に残っている)

区域

東は長勝寺村と灌漑用水路と野道をもって境とし、南は下日吉村と道路の中央と小川をもって境とし、西は同郡村ときぬがさやま繖山の端を登り、山の背をもって境としてその村に隣接し、北は佐野村と道路と灌漑用水路をもって境とし、長勝寺村に対しては、

幅員

東西 4町42間(516メートル)

南北 6町10間(672メートル)

面積 24町7反9畝11歩(24万5878平方メートル)

地味

田んぼは乾いたり湿ったりしている土地が入り交じり、乾いた土地の上の土は黒いところに青赤色が混じり、下の土は赤色で砂礫が混じり、湿地の上の土地は乾いた土地と同じ色である。下の土は青色に砂礫が混じっている。冷たい泉がいつも湧いている。おおむね稲や梁の栽培には中等で、桑や茶には適していない。水利は便利であるが、大雨の時は洪水が田畑にあふれて植物に害がある。畠の上の土は黒いところに赤みを帯びていて、白い砂が混じっている。下の土は赤色であって中等である。野菜や雑穀を栽培している。

神社

氏神はこの村の東の方の神郷村にある。郷社乎加おが神社と言う。豊遠迦比売神を祭る。神崎郡の二座の式内社の一つである。昔より産土神として崇敬し、一般に

「乎加ノ宮」と言う。(佐生村、神崎村、長勝寺村、佐野村を言う)一切の物は皆この四カ村が持っているもので、祭事も四カ村が集まって決定した。祭礼の神輿さるは各氏で管理している。祭の日は3月上旬の申の日である。

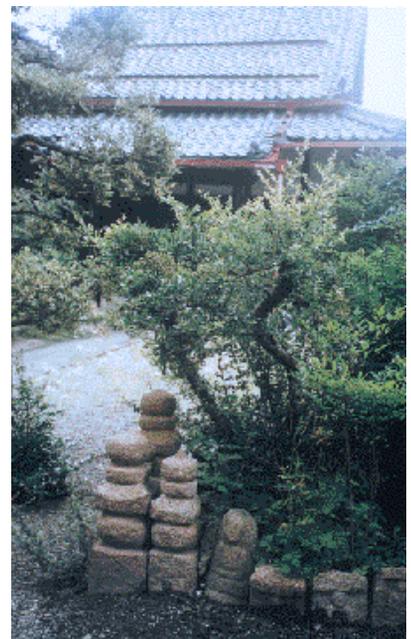
寺院

寶樹山浄土寺 境内は東西の広いところは17間(30メートル)、南北の広いところは12間(22メートル)、面積は186歩(615平方メートル)、寺はこの村の字南里の中にある。京都の真宗東本願寺派の末寺で、本尊は阿弥陀如来の立像である。もとは天台宗の寺であったが、その寺地はこの村の西、字山の下にあった時は隆盛であったが、時代が下がるにつれて段々と衰えた。

第八世の蓮如より六字の名号を賜り、真宗に帰依した。その後天文12年(1543)、当寺の住職浄願の時、現在地に移り、寺を建築した。第十八世大静の時、境内に花の木の大樹があった。昔からの珍木である。

学校

この村の西方の佐野村に学校を設立した。第三学区、第十一番中学区、第五番小学区、又新学校と称した。



浄土寺

平成9年4月30日現在

佐野 SANO

世帯数 488戸
人口 1,614人

佐野 - 3000年

私たちの佐野区は、近年、急速に宅地化が進んでいます。地区中心部は変わりませんが、周辺部は現在でも田畑が住宅に変化している現状です。昭和30年代では戸数150戸程であったのが、現在(平成9年1997)では488戸に増加し、高層マンションもできました。栄町・東佐野・南佐野・堀切・大地は大字佐野地番です。

さて、佐野区に人が住み出したのは、縄文時代後期(いまから3000年程前)からと言われ、人々の生活が始まり、いろいろな暮らしがあり、現在に至っています。区内の遺跡調査により、縄文、弥生、奈良時代等の遺物が出土したことから、太古より人々が生活していたことがわかります。また、最近の法堂寺遺跡の発掘調査により、白鳳時代(680年頃)に五重塔をもつ

寺院が存在していたことがわかりました(現存の奈良薬師寺よりも古い)。この頃から、佐野地区が湖東平野の中心部であったことが、うかがい知れます。法堂寺遺跡は、遺跡公園として、後世に保存・継承していくために整備が進められています。

佐野区においては、文化祭を毎年秋に開催しています。その際、「昔の忘れ物」(平成6年)「戦後50年」(平成7年)「佐野の生い立ちと法堂寺遺跡」(平成8年)等をテーマにして来ました。区民の作品(絵画・写真・手芸・生け花・盆栽・その他)等を展示したり、お茶席を設けたりして、区民の親睦を図っています。また、有志により区内に生息する「ハリヨ」を展示し、自然を守ることの啓発と文化活動にも取り組んでいます。



字の文化祭